

ニューソフィア

New Sophia

69号

[Vol. 19-01]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



■ Greeting

理事長・学長 年頭挨拶

2

■ Featuring News

「口腔医学国際シンポジウム」開催
再生医学研究センター
最先端分析機器導入

3

4

【College News & People】

平成22年度、大学生の就業力
育成支援事業「採択

「健康まるごと」

福岡歯科学園「開催

田中健蔵理事長

「米寿のお祝い」開催

新任教授インタビュー

尾崎正雄先生

「第37回・福岡歯科大学

学会総会」開催

From The Alumni Association

同窓会だより

Hi! From Clinic

暁こども歯科クリニック

熊本県熊本市

こが歯科クリニック

福岡県福岡市

Message From Students & Parents

学生 & 保護者様からの

メッセージ

Information

平成23年度入試日程

平成22年度特待生・特別奨学生

法人、教員職員が一体となって 誇れる母校づくりを

新年明けましておめでとございます。

世の中の動きは大変に激しく、国外では、種族、宗教、経済などの対立をもとにした紛争が続く、国内では政権が交代し、政治、経済、教育、医療、介護などの多方面に互り不安定な状態が続く、不況の波が打ち寄せて、多くの困難な課題が提起されています。

私共は、そのような社会教育環境のなかで、福岡歯科大学の使命を認識し、建学の精神を忘れず、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思っております。新春を迎え、次の項目を今年の重点目標として、皆さんと共に努力したいと思います。

1. 「口腔医学（口腔科）」の学問体系の確立に向けて、教育カリキュラムを充実し、また、学界、医療界、行政および社会の理解・協力を得るため、関連国公立大学および関係諸団体との連携強化を図る。

「歯学から口腔医学へ」の学問体系の改善を図ることとは、単に学問的意義が大きいくだけでなく、歯科医療を真に患者中心のものとする上でも重要であり、また歯学、口腔医学を旨とする若人達に夢と希望を与えるものと思っております。

お正月にいただいた年賀のなかにも、口腔医学の体系確立に努力しましょうというお言葉を沢山いただき感謝しました。福岡歯科大学がトップランナーとして目的を達成するためには、皆で協力することが最も大切なことと思っております。皆様と一体となって頑張ります。

2. 学生募集活動を戦略的・積極的に行うため、入試広報、渉外体制の整備強化を図るとともに、入学選抜方法の見直しおよび高等学校等との連携を一層進める。

3. 国家試験対策等の充実、強化を図り、歯科医師国家試験合格率の上位定着を維持し、歯科衛生士・介護福祉士国家試験については全員合格を達成する。

4. 教育面では、教養ある歯科医師養成を目指し、特に「歯学連携演習」や「診療参加型実習」の充実、eラーニングの活用を図る。また、専門的口腔ケア教育「

や、口腔ケア技術を含めた介護技術教育」を推進する。

5. 大学院を充実する、学内研究センターを中心として社会のニーズに応える先進的研究を推進する。若手研究者や意欲的な研究活動に対する研究支援策を検討する。

6. 病院の機能的・戦略的運営を行うためのマネジメント体制を確立し、診療部門別会計データ等を活用して病院財政の健全化に努めるとともに、患者増に努める。来年度の医療機能評価受審に向けて病院機能の充実を図る。

7. 介護老人保健施設と介護老人福祉施設は、地域の保健福祉のモデル施設としてサービス等の充実を努めるとともに、教育・研究の場として協力する。また、ディケア・デイサービスの利用を拡大を図る。

8. 社会連携・貢献について、公開講座の充実や歯科医師対象教育プログラムの実施等の地域貢献に努めるとともに、アメリカ・欧州・東アジアの大学等との学术交流を推進する。

9. 財務・人事について、新病院建設や教育研究振興のため、基本金等の自己資金の確保に努めるとともに、競争的研究・教育資金獲得の取り組み推進のため、全学支援体制の整備・強化を図る。事業・業務等の見直しを加速し、コスト意識を徹底するとともに、教職員の人事考課システムや効果的なインセンティブ付与について検討する。

10. 安全管理について、全ての学園活動を支える安全安心な情報ネットワークの基盤整備および情報管理体制を構築するとともに、業務適正化のため法令遵守を徹底する。

今年も引き続き、法人、教員職員が一体となって、正しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、人と人との絆を大切に、明るく楽しい学園を作り、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校をつくることを目指したいと思います。

皆様、元気で頑張ります。



理事長 田中 健蔵

創立四十周年の節目を 新たな飛躍の年に

新年明けましておめでとございます。

皆様におかれましては、ご家族、ご友人等と共に、それぞれの新たな年を迎えられ、新年の誓いを立てられたことと思っております。皆様ひとりひとりが立てられた誓いを、それぞれの中で実現され、本年が皆様にとって新しい飛躍の年になることを心よりお祈り申し上げます。

福岡歯科大学は昭和四十七年の設置以来、今年で四十年の節目を迎えます。この間、存亡の危機となる困難もありました。しかし、その時々々の先達の努力と強い意志によって、そうした困難を乗り越えてきました。今日を迎えられたのは、全てを心に秘め、福岡歯科大学を、その教育と研究を支えられた多くの先輩諸氏の血の滲む努力によるものと思っております。

私達は、その意志と努力をしっかりと受け継いで、大学の礎をより強固に固めることを託されています。

大学は今、苦難の時代を迎えています。この苦難は、一大学の努力で解決できるものでもありません。しかし、福岡歯科大学が直面している困難は、福岡歯科大学が克服することしか解決の途はありません。

私達一人一人が、この困難を切り拓くため何ができるかを考え、それを実行することが必要です。それぞれが持つ特長を活かして、教育、研究、診療の向上に努めてくださることを期待いたします。大学が皆さんや皆さんの家族に対して出来ることは、皆さんや皆さんの家族が大学

に対して何ができるかに依っています。苦しい時代だからこそ、お互いに助け合い、協力して困難に立ち向かうことが必要です。

大学を取り巻く状況は、また、予測がつかない状況にありますが、有能な歯科医師を育成する」という大学の原点に立ち返り、しっかりと次代の医療者を創る努力を重ねることが、今、最も私達が求めなければならないことだと思っております。そうした努力が結果につながるとともに、その努力自体が次代を創造するひとつの結果になると思っております。

福岡歯科大学は、今世紀の医療モデルとして口腔医学を提唱し、口腔医学教育に基づく歯科医師養成を、社会に提案してまいります。この考えは多くの方の賛同を得ていますが、その実現には、更に努力が必要ですが、私達一人一人がその実現に向けた強い意志と協力によって、この一年を新たな飛躍の年として、進んでいきたいと思っております。

ことしは辛卯か（とう）の年に当たりますが、辛は、新しい、卯は、茂る、という意味があるそうです。辛卯はまさに古い時代が終わわり、新しい時代が幕を開ける年であり、私達にとって希望の年であります。その意味でも、本年が福岡歯科大学にとって、また、福岡歯科大学を支える皆様にとっても、飛躍の一年となりますことを切に祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



学長 北村 憲司

シンポジウム

戦略的大学連携支援事業
「口腔医学国際シンポジウム」開催
〜アクロス福岡国際会議場〜

江藤一洋日本歯科医学会会長ら
多数が聴講

12月4日、アクロス福岡国際会議場において、戦略的大学連携支援事業口腔医学国際シンポジウムが開催されました。当日は「Grand Design for Future Dentistry」をテーマに沿って、田中健蔵理事長（基調講演）、ダルハウジー大学 M. Michael Cohen Jr. 教授、ケンタッキー大学 David A. Nash 教授、ベルン大学 飯塚建行教授、東京大学高戸毅教授、北海道大学 戸塚靖則教授が講演を行いました。また、ディスカッションでは北村憲司学長をファシリテーターに、活発な議論が交わされました。連携大学の学長・学部長含む全国の大学関係者・医療関係者および一般聴講者約240名の参加があり、盛会のうちに終了しました。



Prof. M. Michael Cohen Jr.



Prof. David A. Nash

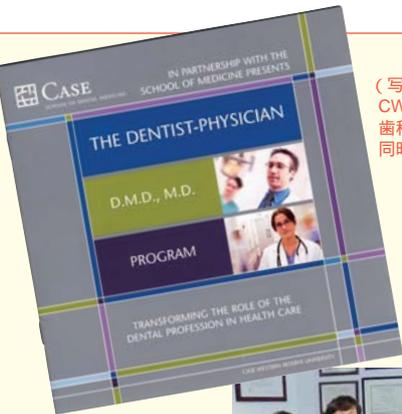


International Symposium on Oral Medicine“ Grand Design for Future Dentistry ”
日時 / 平成22年12月4日(土) 13:00 ~ 18:00 場所 / アクロス福岡 4階 国際会議場

プログラム

- ・Prof. Kenzo Tanaka, Chairman, Board of Trustees Fukuoka Dental College / 基調講演: “ Establishment of Education System of Oral Medicine and Integration of Medicine and Dentistry ”
- ・Prof. M. Michael Cohen Jr., Dalhousie University / “ The Integration of Medicine and Dentistry with Special Reference to the United States ”
- ・Prof. David A. Nash, University of Kentucky / “ Integrating the Education of Dentists with Physicians : The Challenge and the Imperative ”
- ・Prof. Tateyuki Iizuka, University of Bern / “ Dental Education and Oral Health Care System in Europe : What Happened in 10-years of the Bologna Process ”
- ・Prof. Tsuyoshi Takato, University of Tokyo / “ Dental Innovation and the Future of Oral Science ”
- ・Prof. Yasunori Totsuka, Hokkaido University / “ How to Innovate the Dental Education in Japan : The First Step in the Paradigm-shift from Dentistry to Oral Medicine ”

講演者 / 講演タイトル



(写真1) CWR大学では5年間で歯科・医科(DMD&MD)を同時に修得できる。



(写真2) Boston大学oral medicineのChou教授のofficeにて。左から昭和大学・島田講師、北海道医療大学・安彦教授、Chou教授、大星教授。

この度、文部科学省戦略的大学連携支援事業の一環として、10月21日より約1週間、米国東部のCase Western Reserve大学(CWRU) Boston大学(BU) School of Dental Medicineを視察した。CWRUはOhio州Clevelandにあり、Goldberg学長の強力なリーダーシップの下、研究志向への改革、DDSからDMDへの変更、PBLの大幅な導入、医師・歯科医師の両ライセンスを5年で取得できるコースの設置(写真1)など、変革の活気に満ちた大学であった。後半に訪れたBUは、全米でも早期からOral Medicineを導入・確立しており、その推進者で病理学者でもあるChou教授(写真2)から、今後日本での増加が予想されるHIV関連口腔内病変についての豊富な臨床経験に基づいた講義も拝聴した。両学部とも入学希望者の倍率は30倍以上で、米国では歯学部がさらに24校新設されることであった。医学、特に内科系教育の重要性を両大学ともに強調していたことが印象深い視察であった。

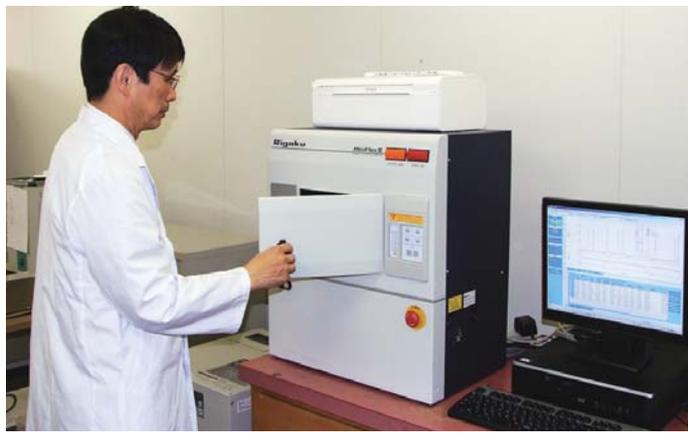
海外視察レポート
内科系教育の重要性を実感した
米国東部2大学視察の旅

総合医学講座内科分野・教授 大星博明

再生医学
研究センター

私立大学戦略的研究基盤形成事業 再生医学研究センターが始動 最先端の分析機器を続々と導入

口腔領域における
硬組織欠損の
再生システム構築を
目指して



③ X線回折装置 MiniFlex II.

歯 周病や口腔癌等の骨喪失をはじめ、硬組織疾患が急速に増加しており、骨組織に対する再生治療の確立が待望されています。本プロジェクトでは、生体内で補填部内を骨形成に最適な環境へと誘導する方法を確立することにより、口腔領域において欠損した硬組織を再建できるシステムの構築を目指します。そのため、昨年10月に再生医学研究センターを発足させ、



② 波長分散型蛍光X線分析装置。



④ リサーチ用高性能クリオスタット。



① in vivo X線マイクロCT装置。

研究遂行のためにセンターに配備する分析機器の選定と導入をすすめています。導入済み、あるいは、導入予定の主な機器を簡単に紹介します。

- ① **in vivo X線マイクロCT装置** (ベルギーSKYSKAN社製の型) 本装置は、世界最高水準の空間分解能をもつCT撮影装置です。マウスやラットなど小動物の体内に埋め込まれた生体材料の挙動も、高速スキャンで経時的に観測可能となります。また、生体モニタリング機能により、呼吸や心拍に同期したデータ収集も可能です。本装置は、昨年7月の発売以来、国内の大学では導入の先例がなく、本学に導入されるものが第一号となります。
- ② **波長分散型蛍光X線分析装置** (リガク製 Supermini MF) 本装置はフッ素より大きな原子番号

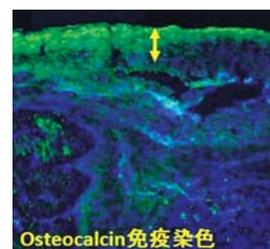
を有す全元素の高感度測定が可能です。また、前処理なしに分析できますので、種々の生体材料の組成分析に適しています。

- ③ **X線回折装置リガク製MiniFlex II (MSM)** 本装置は、生体材料の結晶相組成の決定や結晶学的解析が可能であり、生体材料の調製や体内での変化を追跡する際に大きな力を発揮します。
- ④ **リサーチ用高性能クリオスタット** (ライカマイクロシステムズ株式会社・CM300S) 本装置は、顕微鏡組織観察のための効率的な非脱灰標本作製が可能です。

- ⑤ **蛍光顕微鏡(ニコン)** 本顕微鏡は、三重免疫蛍光法まで可能な蛍光観察、位相差観察および透過光

観察ができる倒立型顕微鏡です。汎用されているハンディなものに比べて、解像度に優れています。

これからさらに設備を充実させ、学内各分野および既設のアーニマルセンター、先端科学研究センターとの連携を図りながら研究を推進していきたいと考えています。(松家再生医学研究センター長談)



⑤ 蛍光顕微鏡の染色データ (ラット頭蓋骨欠損部に形成させた組織の染色標本。オステオカルシン陽性細胞<緑> <<<:CRZ)

レポート 「キックオフシンポジウム」開催

センター発足を飾る 示唆に富んだシンポジウム

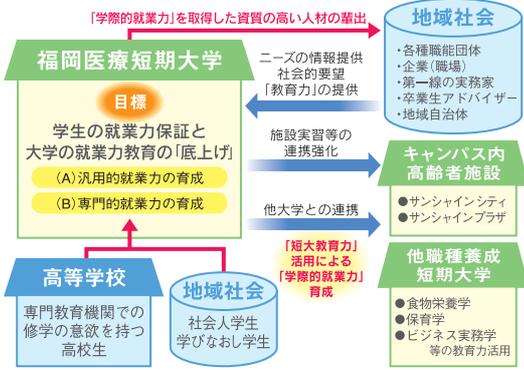
戦略的研究基盤形成支援事業採択テーマである「生体内環境を調和する硬組織再建システム」の研究開始にあたり、キックオフシンポジウムを昨年10月15日福岡歯科大学本館の504講義室で行いました。田中健蔵理事長による挨拶、センター長の松家茂樹教授によるテーマ概要の説明に続き、まずは、福島忠男准教授による「サケ由来DNA複合体の硬組織再生医療への応用」ならびに川口稔講師による「ナノカーボン分子ヒーターによる温熱療法用デバイスの創製」という講演が行われました。次いで、再生医学で有名な東京理科大学・総合研究機構の辻孝教授による招待講演「生体内環境と調和・機能する歯科再生治療の実現を目指して」が行われました。どの講演も、当研究センターにおける硬組織再建システムを目指した研究にふさわしく、示唆に富んだ内容でした。聴衆は一心に耳を傾け、講演後の質疑応答も予定の時間をオーバーするほどの熱心さでした。



辻孝先生の講演に熱心に耳を傾ける出席者の皆さん。

当研究センターの発足に当たって実り多いシンポジウムを開催できたことを、皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも、センターの発展にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本学短期大学の就業力育成への取り組みチャート



九州の医療・福祉系短大唯一！平成22年度、大学生の就業力育成支援事業」に採択される

福岡医療短期大学が文部科学省に申請した「短期大学教育力活用による学際的・就業力育成」が、平成22年度、大学生の就業力育成支援事業」に採択されました。全国的に就職率が低迷する中、これまでの実践的「介護実習」や「口腔ケア教育」等の実績に加え、さらに、大学生にとって重要である卒業後に社会的に活躍し職業的に自立できるための多面的な就業力育成の取り組みが評価されました。全国に短期大学が407校、平成21年度（ある中で、わずか19校の選定で、医療・福祉系短期大学では九州で唯一の選定でした。これからの医療・福祉系教育機関のリーディングカレッジ(Leading college)として、平成22年度下半期、平成26年度の5年間にわたり約1億円規模での教育事業に取り組んでいきます。

短期大学 九州の医療・福祉系短大唯一！平成22年度、大学生の就業力育成支援事業」に採択される



今年度「キャリアパス講演会」のひとコマ。 体験情報共有します。 ③様々なキャリアをもつ 歯科医師に

文部科学省の平成21年度学生支援推進プログラム「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」にシステムの外部アクセス機能・キャリアアカウンセラーが加わり、今年2年目となる。この取り組みは、求人・就業先情報を外部から入力・閲覧できる等内容を充実するとともに、キャリアアカウンセラーが卒業生の勤務先を訪問し、勤務から開業に至る実態を把握し就業相談や個々の能力や適性に合わせたきめ細かな就業支援を行います。

平成21年からの取り組みでは、歯科医師としての将来像を早くから描き、就業への意識を高め、生涯を通じて意欲的に研鑽を積む姿勢や職業倫理意識を向上させることに加え、就業先の「TとZ」と個々の学生が描く将来像や能力との適合を図り、生涯研修の第一歩として最適な臨床研修施設の選定を学生が主体的に行える能力を身につけさせ就業支援を強化しています。主な取り組みは、①就業情報通信システムにより求人・就業先情報、②学生が地域の歯科医院や病院施設を訪問し報告会で



学生支援カウンセリング風景。

キャリアパス講演会 さらなる充実を図っています 歯学生の就業支援強化に向けて

この講演会を定期的に実施します。これらの取り組みのうち、③については、地域で活躍されている卒業生・歯科医師の方をお招きし、各先生のご活躍に至る様々な状況についてお話しただく「キャリアパス講演会」を開催しております。本年度は以下の先生方に講演いただきました。

本年度の「キャリアパス講演会」一覧

講演日	講師名	出身	診療施設名	講演タイトル
5/27	白井 義英	5期生	白井歯科医院 院長 (大塚府)	臨床医を中心とした日常の中で研修医指導と自己研究継続の意義について
	馬場 篤子	12期生	福岡歯科大学 育成小児歯科学分野 講師	講師までの道しるべ
6/3	山本 未陶	23期生	福岡歯科大学 口腔健康科学分野 助教	公衆歯科衛生活動について
	御手洗 聖史	12期生	対馬市立峰歯科診療所 所長(長崎県)	夢をかなえる歯科医師という仕事 パートII
6/10	平塚 正雄	9期生	福岡リハビリテーション病院 歯科部長	リハビリテーション医療における歯科の役割とその重要性
	泉 喜和子	22期生	福岡歯科大学 口腔外科学分野 講師	私が口腔外科を選んだ理由
9/16	本岡 路都子	29期生	もとおか歯科医院 院長(長崎県)	離島の歯科医療
10/14	二木 寿子	3期生	九州大学病院 特殊歯科総合診療部 全身管理歯科 講師	急性期病棟の歯科スタッフとして
	土屋 嘉都彦	24期生	土屋デンタルクリニック(大分県)	アメリカの歯科教育を受けて
11/11	吉良 直子	九州歯科大学卒	熊本中央保健福祉センター 所長補佐	住民に寄り添う地域口腔保健活動について ~赤ちゃんからお年寄りまで~
	石田 万喜子	13期生	いしだまきこ小児歯科 院長 (久留米市)	小児歯科医としての地域とのかかわり
12/2	橋本 敬昭	1期生	はしもと小児歯科医院 院長(北九州市)	歯科医師としての生甲斐
	松尾 憲篤	3期生	松尾歯科医院 院長(佐賀県唐津市)	歯科医師会活動と自院での取りくみ

シンポジウム

地下鉄七隈線沿線3大学 合同シンポジウム開催

平成23年1月22日、福岡大学病院・福大メディカルホールにおいて第6回地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、地下鉄七隈線沿線に所在する中村学園大学、福岡大学、本学の3大学の共催で、市民の健康づくりを目指して実施しており、今年度で第6回目の開催を迎えました。

今年は「メタボ・糖尿病の克服に向けて」～口腔・栄養・代謝から見た管理・治療戦略～というメインテーマのもと、各大学の講師からそれぞれの専門分野における講演がありました。当日は、地域の皆様や各大学の関係者を中心とした多くの来場者で会場は活気にあふれ、市民の健康に対する意識の高さが伺えました。

レポート 第2回 ふくおか教育フォーラム

学内外から109名の参加。食と健康/安全について知る

10月8日、地下鉄七隈線沿線3大学連絡協議会の活動の一環として「第2回 ふくおか教育フォーラム」が開催されました。当日は、学内外から109名の参加があり、内閣府食品安全委員会委員で東京大学名誉教授の長尾拓氏による特別講演をはじめとする講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

「第2回 ふくおか教育フォーラム」開催概要

- ・開会挨拶 福岡歯科大学 学長 北村 憲司
- ・基調講演「食と健康」 中村学園大学 学長 藤本 淳
- ・特別講演「食品摂取の安全確保への取り組み」 内閣府食品安全委員会委員 東京大学名誉教授 長尾 拓
- ・閉会挨拶 福岡大学 副学長 瓦林 達比古

イベント

第6回「健康まるごと福岡歯科学園」開催

10月23日、24日の両日、もうすっかり恒例となった「健康まるごと福岡歯科学園」が開催されました。当日は、雨天にもかかわらず2,300人以上の来場者で賑わいました。

学園祭「田の歯科祭」

ステージイベント、模擬店など盛りだくさんで大盛況

正門北側駐車場を会場として第36回「田の歯科祭」が行われました。ステージでは、学生企画のイベントのほか、地域の子供たちのダンスや太鼓演奏、タレントのキャン×キャン、みっちゃんによるお笑いライブなど盛りだくさんの内容でした。模擬店も、クラブやサークルによる出店のほか町内会からの出店もあって大賑わいでした。模擬店を出店された田隈2丁目町内会より、利益の全額を田の歯科祭実行委員会へ寄附していただきました。ここに記してお礼を申し上げます。



地域の子どもたちによる太鼓演奏。大人顔負けの迫力に会場からは大きな拍手が送られました。



カラオケ大会の一風景。自慢ののどだけでなくダンスやユーモアなどで聴衆を魅了しました。

医科ミニ講座

医科の専門医によるミニレクチャー

医科の診療科から専門医の先生が身近なテーマで20分の講義を行いました。23日は内科・形成外科・外科、24日は耳鼻咽喉科・心療内科の先生によって、腎臓病からうつ病までさまざまなテーマが取り上げられました。こころと身体についての大切な話に、のべ146名の方が熱心に耳を傾けました。

歯科無料相談

歯科の診療科による無料相談コーナー

24日に医科歯科総合病院で歯科の診療科による無料相談コーナーを開設しました。コーナーでは、歯周病や歯垢のチェックを行い、また歯ブラシや電動歯ブラシの展示も行いました。お子さんを中心に多くの方が訪問されました。



歯科相談の様子。子どもたちにはおみやげの風船が好評でした。

からだの科学展

見る、聞く、触れる、体験するからだの不思議

大学の各講座・分野が展示・体験コーナーを開設し、「からだの不思議」をキーワードに専門分野の学問や技術を紹介しました。中には難しい展示もありましたが、それでも子どもたちは、理屈抜きに不思議を楽しんでいました。



ネイルアート体験コーナー。毎年、未来のレディーたちに大好評です。

短大企画「口から始める介護予防」

福岡医療短期大学による口腔ケアと介護についての催し

歯科衛生学科は、歯周病チェックや歯にまつわるクイズなどで口腔内ケアの大切さをアピールしました。保健福祉学科は、障がい者や高齢者への理解を深めてもらうために、ロボット犬のふれあいコーナーを設置しました。また近隣の介護施設から直売コーナーを出店してもらいました。



保健福祉学科のロボット犬ふれあいコーナー。

講演会

福岡歯科大学901講義室にて、23日はイネス多恵子先生(ギルフォードカレッジ・オブ・アロマセラピー学長)による講演「歯科医院で活用できるアロマとイギリスでの医療社会」が、24日は池邊哲郎先生(本学口腔外科学分野 教授)と向野利一郎先生(本学眼科学分野 助教)による講演「ドライマウス・ドライアイ」が行われました。のべ270名もの多数の聴衆が講演に耳を傾けました。

介護施設見学・介護無料相談

介護老人保健施設サンシャインシティおよび介護老人福祉施設サンシャインプラザにおいては、施設を開放しての施設見学と施設職員による介護無料相談が開かれました。併せて、利用者の方が作られた作品の展示や各種介護機器の紹介展示なども行われました。

協賛 「福岡西部副都心Eまち歩き2010」



老若男女の皆さんにご来場いただきました。

「お口と体の無料相談」などのブースを出展。約220名が来場。11月6日、7日に行われた福岡西部副都心Eまち歩き2010に本学も参加しました。唐人町商店街において「お口と体の無料健康相談・血流量ストレス度無料測定」を行い、2日間で約220名の方が相談に訪れました。

健康フェア2010

「健康まるごと」が天神に進出!?



10月23日、24日に福岡市役所前広場北側緑地で開かれた「福岡市健康フェア2010」に福岡歯科大学も参加しました。福岡市歯科医師会、福岡県歯科衛生士会と協力し、「健康まるごと福岡歯科学園」の天神ブースを開設し、歯周病の無料チェックや相談を行いました。



秋山治夫氏のご祝辞(写真左)を聞き入られる田中理事長ご夫妻。



祝賀

田中健藏理事長
米寿お祝い

11月19日、ホテルニューオータニ博多にて、本学園の理事長である田中健藏先生の米寿をお祝いする会が開かれました。本学園の理事・評議員、教職員をはじめ、関係者約140名が参加し、盛大な祝宴となりました。本学園の理事である大石秀雄氏、福岡県歯科医師会会長 秋山治夫氏、本学同窓会長 宮口巖氏によるご祝辞、田中理事長の88年の歩みを紹介する写真紹介や記念品贈呈などが行われ、盛会のうちに終了しました。

新任教授インタビュー

尾崎正雄 先生

長年の経験を生かして
地域歯科医療に貢献していきたいですね

この度は教授昇任、本当におめでとございます。今の喜びの気持ちを簡単にお聞かせください。

尾崎教授 これもひとえに教授就任までの道のりをご支援いただきました吉田穰、本川涉両名誉教授をはじめ、福岡歯科大学同窓会宮口巖会長や同窓会員の先生方のおかげと深く感謝申し上げます。

私の学生時代は、本当にのんびりした時代でした。軽音楽部(現MA)に所属し、毎日バンド仲間と過ごしたことが懐かしく思い出されます。今の学生さんたちは、本当に勉強するようになると痛感しています。

卒業後は、心理学の研究がたくて小児歯科に入局しました。学生時代に遊んだ欠、毎日12時過ぎまで勉強しました。留学のきっかけは、本川教授に作って頂いたのですが、やはり本川教授と夜遅くまで研究した時に話したのがきっかけでした。

このカリフォルニア大学サンフランシスコ校にお世話になりましたが、Brian教授や、Morris教授には大変お世話になりました。

今後の抱負は。

尾崎教授 近年、小児う蝕の軽症化に伴い、大学病院に来院される患者様の臨床内容も変化してきております。たとえば、昔はう蝕による拔牙や歯内療法が多かったのですが、最近では不正咬合を主訴とした患者

様や、過剰歯・埋伏歯など外科的処置を目的に紹介で来院される患者様が増加しております。更に現代社会を反映してか、患児や保護者に対する口腔管理も難しくなってきました。

口腔管理も難しくなってきたのが現状です。幸い、私の所属講座の矯正歯科学分野には良くして頂いておりますので、咬合誘導の患者様の相談にも気軽に応じて頂ける体制にあります。このような患者様に対して、長年勉強した心理学や口腔外科手術の経験を生かしながら、口腔管理をしていきたいと思っています。

また、小児歯科専門医の育成や同窓会や歯科医師会との病診連携を重視した診療体系を整え、地域歯科医療に貢献していきたいと考えております。今後とも同窓会の皆様からのご紹介をお願いいたします。また今まで同様、皆様の指導・鞭撻を宜しく願います。

ありがとうございます。今後先生の活躍をお祈りしております。



専門医認定

本学元研究生の江原先生、
日本病理学会口腔病理
専門医に認定

7月28日、本学元研究生の江原道子先生が日本病理学会口腔病理専門医に認定されました。日本病理学会口腔病理専門医とは、歯科医師免許取得後に日本病理学会が認定する研修施設で5年以上病理学研修を行い、所定の研修内容を修了した後、同学会が実施する口腔病理専門医試験(筆記試験、実技試験)に合格し、同学会口腔病理専門医制度運営委員会で審議、認定された歯科医師です。口腔病理専門医は104名(9月1日現在)しかおらず、取得が大変難しい資格です。江原先生の今後益々の御活躍を祈念いたします。



北村学長と喜びの握手を交わす江原先生(写真右)。

人事

新任

すいた さちよ
水田 祥代 客員教授

【略歴】九州大学医学部卒、英国リバプール大学附属小児病院留学。帰国後、九州大学大学院医学研究科修了、九州大学第2外科助手、小児外科講師、福岡市立こども病院小児外科部長、九州大学医学部小児外科学講座助教授、教授、九州大学病院院長、副学長を経て平成22年10月1日福岡歯科大学客員教授に就任。医学博士。大分県出身。

【抱負】全身疾患における口腔医学の重要性は広く認められるようになり、ますます口腔専門医のニーズは高まっています。口腔医学の学問体系の確立と更なる社会的な認知を求めてフロントランナーである本学で勉強させていただき、新しい教育体制の推進に参加させていただきたいと思っております。



昇任

おざき まさお
尾崎 正雄 教授(成育小児歯科学分野)

【略歴】福岡歯科大学卒、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学。福岡医療短期大学准教授、福岡歯科大学准教授を経て、平成22年11月1日同大学教授に就任。歯学博士。福岡県出身。

【抱負】少子高齢化と、う蝕の軽症化により小児歯科外来に来院される患者様の疾病構造も変化してきました。私たちの小児歯科では、不正咬合や過剰歯、埋伏歯の治療を目的に来院される患者様が増加しています。このような患者様の要望に対応した診療と研究体制を整え、地域医療に貢献できる小児歯科専門医を育てていきたいと考えていますので、皆様のご支援とご鞭撻をお願いいたします。



みわくにひろ
三輪 邦弘 講師(画像診断学分野)

【略歴】九州大学歯学部卒。同大学歯学部助手、長崎大学歯学部助手、福岡歯科大学助手を経て平成22年11月1日同大学講師に就任。博士(歯学)。福岡県出身。

【抱負】主観的読像手法のみでは対応できない最新医療画像を患者の有機的病態様相と連結させた定量的組織性状診断法の確立を研究目標に努力します。観察した患部の画像所見から病変の生体物性を考える口腔医学教育を目指します。

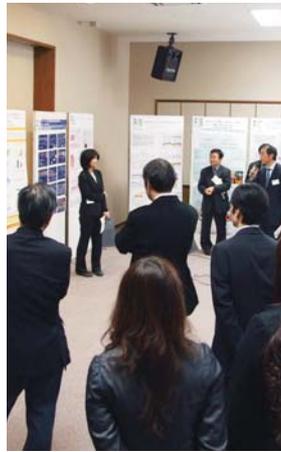


学会総会

第37回・福岡歯科大学学会総会 「痛み」をテーマとした シンポジウムなど盛況に

学内外から約300名の参加を受けて開催

12月12日、福岡県歯科医師会館において第37回・福岡歯科大学学会総会会長・湯浅賢治（画像診断学分野教授）が開催され、学内外から約300名の参加がありました。「痛み」をテーマとしたシンポジウムでは、本学分子機



ポスター展示会場の様子。

能制御学分野の大久保つや子准教授の基調講演、痛みとその修飾の機序。最近の知見からわかってきたこと。その後、本学卒業の歯科医である上林融氏（3期生）、石川昌嗣氏（18期生）、野上堅太郎氏（22期生）や和嶋浩一氏（慶應義塾大学歯科口腔外科学専任講師）の講演があり、参加者からは活発な質疑応答がありました。また、そのほか一般口演とポスター展示が行われました。

学会奨励賞には山本勝己講師（口腔インプラント学分野）と諸富孝彦講師（歯科保存学分野）が選ばれました。

卒後研修 口腔インプラント 卒後研修プログラム 初級講習会を開催

ラント治療の基本的知識と技術の修得を目的としており、28名の受講者は2月6日までのうち計5日間受講します。

臨 床研修医、専攻生、医員、その他インプラント治療に興味のある若手歯科医師を対象とした口腔インプラント卒後研修プログラム初級講習会が10月31日を皮切りにスタートしました。

この講習会は、インプラント治療を始めるために必要なインプ



熱心の実習を受ける受講者たち。

クリスマス忘年会

サンシャインシティ・サンシャインプラザにてクリスマス忘年会を開催

12月19日、介護老人保健施設サンシャインシティにてクリスマス忘年会が、また12月23日には隣接の介護老人福祉施設サンシャインプラザにて忘年会が開催されました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者や利用者、ご家族、職員ら共々大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



サンシャインシティクリスマス忘年会。

慰霊祭

第35回を迎えた「献体者慰霊祭」
「実験動物慰霊祭」

10月14日、午後1時から博多区祇園町の普賢山萬行寺において「第35回献体者慰霊祭」が、また同日午後4時半からアールセンター実験動物慰霊碑前において、第35回実験動物慰霊祭が、しめやかに営まれました。関係者が多数参列し、献体者、実験動物それぞれ尊い御霊のご冥福をお祈りしました。



「献体者慰霊祭」で中辞を讀む中嶋宏樹さん(2年)



感謝の気持ちで冥福を祈った実験動物慰霊祭。

就業セミナー

福岡医療短期大学
就業力ガイダンス
セミナー開催

本年度、福岡医療短期大学が選定された「大学教育・学生支援推進事業」就職支援推進プログラムの一環として、サンシャインシティ、サンシャインプラザの施設長や本学卒業生によるガイダンスセミナーを実施してきました。来年度は新たに選定された「大学生の就業力育成支援事業」の中でも、さらに取り組みを充実させてまいります。



ガイダンスの様。

学友会

学生自身も
禁煙活動に
取り組みました

平成22年度福岡歯科大学学友会事業計画の中で、禁煙活動を行うことが総務委員会決定され、10月1日から12月まで体育部会・学術文化部会の持ち回りで研修センター周辺の清掃活動や、禁煙啓発ポスターの掲出などの活動を自主的に行いました。



学外の清掃を行う学生たち。

この遠い道程の為に

「僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる」は高村光太郎の有名な詩ですが、私たちはこれまで、先人の歩いた道をお手本として、努力してきました。しかし、地球温暖化、異常気象、資源枯渇など世界は混沌とし、いつのまにか先人の作った

道が見えなくなっています。ふと後ろを振り返ると、道はできておらず、「後ろに道ができる」のは作られた道を歩いてきたからではなく、道を作ったからであることに気付かされるのです。だからこそ、凛とした緊張感と強い意志がこの言葉から放たれ、私たちの心に何回も突き刺さるのだと思います。今までにないこと、人と違うことの中に新しい道があり、これ

からの時代は人と違うことを恐れるのではなく、人と違うことを誇ることが大事なのだと思います。「この遠い道程」を進む力は人と違う私自身の中にあり、そう考えると、気力が充実してきます。新しい年の新しい一日はこれまでと変わらない一日ですが、目標に向かって着実に歩を進める新鮮な一日です。

福岡県西同窓会 学術研修会

口腔インプラント治療における合併症とその対策

福岡県西同窓会学術常務理事

粉浩一(3期)

平成22年8月25日、福岡県歯科医師会第1、第2会議室において、福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野教授の松浦正朗先生をお招きして講演会を開催しました。

欠損補綴を行う上で、インプラントは避けて通れない状況になってきており、それに伴いトラブルも増加傾向にあります。そこで今回は松浦教授にインプラントにおけるトラブル、合併症についての講演をお願い致しました。

講演では、外科的合併症には神経損傷、出血、骨折、埋入位置の錯誤、感染など、そして補綴処置に

関連する合併症としてスクリーや上部構造の破折、誤飲、誤嚥などがあり、治療後に発生する合併症としてはインプラント周囲炎があることや、そうしたケースで合併症を起こした症例を示され



改めて気の引き締まった講演となりました。

最後に、そうした外科的合併症を避けるためにはCTを撮って様々なシミュレーションソフトを活用し、確実な診断を立てることが重要であり、さらにサージカルガイドも作った方がいいとの結論にて、この日の講演を終えられました。

予防のために必要なこと、合併症に対する処置などについて述べられました。



講演していただいた松浦先生(写真左より2人目)と、今回のスタッフたち。

さらに重篤な合併症としては出血があり、死亡事故も起きており、舌側の骨を穿孔して動脈を損傷しなくてもオトガイ部ではドリリングで血管を巻き込む危険があるといったお話もありました。パントモでは下歯槽管まで十分な距離があるものの、下顎骨が大きく陥凹しているため、下顎大臼歯部に短いインプラントを埋入した症例を示され、加えて、上顎洞や鼻腔にはいろいろな形態があると

卒業生 NOW

「臨床・研究・教育」

村上 弘 (31期)



はじめまして。31期卒の村上弘です。私が卒業してはや2年が経とうとしています。歯科医師としてまだまだ未熟者で日々勉強の毎日を送っております。現在、私は福岡歯科大学大学院へ進み臨床、研究、教育に携わっております。二足では飽き足らず三足のわらじを上手に?履きこなしております。私はもともと欲張りで頑固で1度決めたことは是非でもやる人間です。そんな強情な私

のことを理解して頂き、臨床と研究をできる環境を快く提供していただいた大学の先生方には本当に感謝しております。また、その道を歩むことを許してくれた両親をはじめ私を支えてくれているすべての人に感謝しております。

「なぜ、大学院へ?」という問いをよく聞かれます。答えは簡単です。臨床をとおして単にもっと患者様に有益な治療方法を提供したいと思ったからです。具体的にいうと既存の治療方法より良い方法で付着歯肉を作りたい、そう思ったからです。このように臨床の中にこそ患者様の利益に直結した研究テーマがあると信じています。だからこそ、臨床をしながら研究をするという形にこだわりました。研究はそんなに甘くないとい

われる先生もおられると思います。実際のところ、私自身もちょっとした壁にぶつかっており試行錯誤しております。甘い道とは少しも思っておりません。しかし、私自身研究するにも明確な目標が目の前の患者様にあるということが何よりのモチベーションになるのです。

また、大学に残るといことは後輩の指導にもあたるといことになり。私が先輩方にご教示頂いた歯科医師として歩んでいくために必要なことを後輩たちにも伝えなければなりません。どこまで伝えられるかわかりませんが、国家試験対策、臨床実習、基礎実習の中で何か教えられたらという思いで指導にあたっています。そして、彼らが歯科医師になったとき臨床家もしくは研究者としてお互いの意見をぶつけ合えたらと思います。

卒業生の皆さんにはこんなこと考えている変わった後輩がいる、在学生の皆さんにはこんなこと考えている変わった先輩が大学にいると知って頂けたらと思います。筆を執った次第であります。ひとつ欲を言うと、ただそれは自分の信念に向かって一生懸命やっているヤツなんだと思って頂けたら幸いです。最後まで欲張りですみません。



2010AAP-JSP共催大会 ハワイにて。

同窓生からの手紙

「第62回・九州歯科医学大会」へ出席して

理事 深井 修一 (3期)

平成22年10月16日(土)佐賀県武雄市にて「第62回・九州歯科医学大会」が開催されました。当日は福岡歯科大学同窓会九州支部長会議と懇親会に出席しました。山口県からの参加でしたが、途中乗り継ぎの武雄バス停で、本部副会長の長尾先生(1期)と偶然出会い、30分程度のバスの中で一緒でした。

同じ外来のみの診療でも1ヶ月の保険点数が医科の半分にも満たない歯科。これがいかにおかしいことが、又これを打破するために何をしなければいけないかを熱く語ってくれた長尾先生。大変頼もしく感じました。学会開

催地 佐賀県 県歯会長の寺尾先生共々御活躍を願っています。支部長会議、懇親会では学生時代からよく知っている実行委員長の小川内先生や次期開催地、長崎県同窓会長俣野先生の堂々たる挨拶は大変眩しくつりました。

百数十名が集まった懇親会は、大変勢いがあり、九州から低迷する歯科界が変わるかもしれないという予感めいたものを感じました。

同窓会においては、宮口会長が5年、10年、15年かけて育てた種が次々と花開き、尾崎正雄先生(3期)が育成小児歯科学分野教授に10月19日の法人理事会で決定される模様という報告がありました。あつという間に30年以上経過しましたが、入学者が定員割れる問題も含めて、いよいよ同窓会の出番到来という感を強く持ちながら帰路山口へと向かいました。

「子どもの笑顔を支えに」

王 暁華 (25期/暁こども歯科クリニック 熊本県熊本市)

スタッフ共々喜ばれる
クリニックを目指しています

平 成19年9月1日から熊本市長嶺にて暁こども歯科クリニックを開業しております王暁華です。

開業して3年が経ちました。開業については以前からの目標だったので大まかな構想はあったもののイメージを形にするということ、伝えることの難しさに直面しました。ただ妥協はしなくなかったので、設計・建築の方とは何度も細かいところまで話し合いを重ねました。周囲の方のアドバイスもあり、出来上がったクリニックは自分が描いてきたイメージの外観であり内装でした。ただ、プライバシーの保護が重要視されているこの時代にオープンな形のクリニックは保健所の方や社保の方は疑問を持たれていきましたが、実際に来ていただいている患者様や保護者の方にはオープンだからこそどんな治療をし、どんな風に子ども



「常に笑顔を保やさない」(前列左) 王先生とスタッフの皆さん。

ちと接しているか見ることが出来るので安心という意見も頂けているので嬉しくも思います。また、自分自身もそうですが、スタッフにとっても、常に見られているという緊張感の中で仕事をすることが多いと思います。自分自身もまだまだ未熟なので今はスタッフと共にいかに多くの子どもの歯医者に対する恐怖心や抵抗感がオープンな形であることと自分たちの対応によって少しでも和らいでもらえるよう小さなことでもスタッフ全員で考え、話し合いをするようにしています。



オープンな診療スペースにこだわったクリニック。

スタッフと自分の気持ちが一つになって初めて、暁こども歯科クリニックの治療方針や考え方が患者様や保護者の方にも伝わるのだと思います。少しでも多くの子どもたちの笑顔に出会えるよう、そして、このクリニックがこの長嶺という場所にできて良かったと思われるよう、患者様を大事に、笑顔を保やさず、常に前向きにこれからもスタッフと一緒に日々精進していきたいと思えます。最後になりましたが、開業までの間、そして今も諸先生方には本当にいろいろお世話になっていることをこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。これからもご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

「感謝・感謝」の気持ちで

古賀 仁 (24期/こが歯科クリニック 福岡県福岡市)

周りの支えを実感しながら
日々、精進しています

同 窓生の皆様こんにちは。福岡市早良区で開業しております24期生の古賀仁と申します。大学卒業後咬合修復学講座・冠橋義歯学分野に4年間、口腔インプラント学分野に3年間お世話になりました。平成22年8月1日から開業いたしました。大学勤務時代には、同窓会の補助金でANDRという国際歯科学会に参加し発表もさせていただきました。貴重な体験ができました。

開業している地域は欠損歯列を有する患者様が多数あり、義歯の治療が多く毎日四苦八苦の状態ですがスタッフをはじめ、患者様と一緒に楽しく治療を行っており



古賀先生(前列左)と先生を支えるスタッフたち。



落ち着いた雰囲気クリニック。

ます。また、福岡歯科大学からも近く、インプラントの術前検査のCT撮影、難症例の患者様の依頼などで今も大病院にはお世話になっています。開業するにあたり、資金の調達や業者との打合せなど今まで一度も経験したことのないことばかりで何かと大変でしたが、両親のアドバイスや妻の支えがありなんとか開業することができました。

2年前に結婚し、昨年は娘が生まれ、今年には開業といういろいろなことが経験でき人間として少しは成長できたかなと思いますが、一人ではできなかったことばかりで周りの方たちに「感謝・感謝」です。毎日の診療も歯科衛生士、歯科助手、歯科技工士などの方々がいて成り立っていることを忘れず、「感謝・感謝」の気持ちを持ち続けることが大切だと思います。

まだまだ未熟者ですが、少しでも地域医療に貢献できるように技術、知識を高めていくように努力していきたいと思えます。最後に今までお世話になりました諸先生方にお礼を申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

From Student

3オン1パットのプレイヤーのような
歯科医師を目指して…

緒方 武文 (大学4年)

4年生の緒方武文です。熊本県出身でゴルフ部に所属しています。最近、ようやくアベレージが90台になりました。ゴルフの面白いところは、2オン2パットでも、3オン1パットでも同じパー4というところにあると思います。私自身は飛距離がないので、後者になるのですが…。



私がこのような企画に選ばれたのは、先日行われた「第36回 田の歯科祭」の学園祭実行委員長をさせていただいたからです。おかげさまで、無事に学園祭を終えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

個性の強い実行委員のメンバーをまとめるのは大変で、全員に同じ方向を向かせるということは困難でした。果たして、自分は開業医としてやっていけるのか？ 従業員を引っ張っていけるのか？



「第36回 田の歯科祭」実行委員会のメンバーとともに。

という疑問にぶつかりました。しかし、私は3オン1パットのプレイヤーです。将来、1パットで沈められるよう、今は多くの人生経験を積み、魅力ある人間・魅力ある歯科医師になりたいと思います。

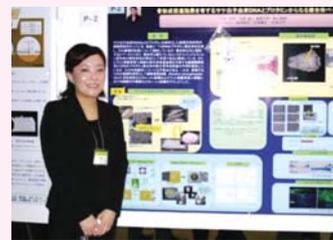
From Ph.D. candidate

第56回・日本歯科理工学会で
奨励賞をいただきました

森 南奈 (大学院1年)

「第56回・日本歯科理工学会」が開催されました。初めての学会で、さらに審査員の前での発表は想像以上に緊張しました。しかし、先生方や友人の応援のおかげで幸運にも賞をいただくことができました。

白子がなぜ生体材料に変身するのか？ タイトル「骨再生促進効果を有するサケ白子由来DNAとプロタミンからなる複合体ペースト (Complex paste of salmon testes-derived DNA and protamine can promote new bone formation)」を読まれた方から必ず聞かれる質問です。サケ白子にはプロタミンとDNAが含まれ、プロタミンはすでに医薬品として使われていますが、DNAは廃棄されています。そこでDNAを生体材料に応用する研究が始められています。



発表時に使用した説明ボードをバックに。

本研究はその一部でDNA / プロタミン複合体ペーストはインジェクション型なので歯周外科における骨欠損の新生骨形成を促す材料として臨床応用できるよう、今後さらなる研究を行いたいと思います。

FROM PARENTS 保護者様からのメッセージ

歯科(口腔科)医は命の入り口を守り
心の出口を守り育てる

平成22年11月13日、14日、12月4日、5日に、福岡県歯科医師会は口腔機能回復支援相談研修会を開催しました。これは超高齢化した日本において高まる「死ぬまで口から食べたい」という社会的ニーズに応えるため、他県より多少出遅れたもののスタートしました。まず医科のチーム医療に参加していくために医学的な用語の学習(麻痺の種類他)検査データの意味など、ケアマネジャーや介護士、スピーチトレーナー、主治医などとの連携がスムーズに取れるような基礎を学びました。さらに我々歯科医が担当する摂食嚥下障害の検査診断、リハビリなどのテクニックなども学んでいくことにより、福岡県内の家族と同じものを一緒に楽しく食べる機会を失っている方々のQOLを高めていく手助けをしていけるようになると思います。

近年、歯科医院の数はコンビニより多く、歯科医のワーキングブア問題などにより歯科医師を目指す者の数が減少してきています。しかし歯科医師が増えたから口の問題がすべてなくなったのでしょうか？ 日本では高校までは歯科検診が法的に義務づけられていますがそれ以降は歯科の問題は自己責任とされ、放置されています。そのため歯周病の罹患率は30歳以上で高率となっています。臼歯の喪失が摂食嚥下機能に与える影響は大きいと思われれますが、一般の方々の関心を引くまでには至っていません。脳卒中などによる麻痺が起こってからはその影響はさらに深刻になってきます。まだまだ我々歯科医師が必要とされる問題は多く残されています。在学中の君たちは歯科医師としての最低限の知識を習得し最短年限で歯科医師免許を取得してもらいたい。免許を得てからのほうが勉強することが多いのだから。



今井 富実生 様
(父兄後援会副会長)

脈々と続く大学の「気質」を
今でも感じながら…

私は、1974年に福岡歯科大学に入学し80年、2期生として卒業後、91年まで、口腔外科学第一講座に在籍し、足かけ18年福岡歯科大学にお世話になりました。また、娘は01年に福岡歯科大学に入学し、29期生として07年に卒業しました。さらに08年からは息子もお世話になっております。長期間一家で福岡歯科大学と関わっており、家族が揃うと大学の話題になることも珍しくありません。

思い起こせば、今から37年前、私が大学に入学した頃には、大学の周りは田圃ばかりで、実習などで夜が遅くなった帰り道には、カエルの大合唱に見送られながら家路に着いたものでした。しかし息子が通う現在は、都市高速道路、地下鉄、幹線が大学の近所を走り、その当時の面影はわずかばかりとなっております。

大学は、周囲の環境ばかりか、大学教育の雰囲気も大きく変わってきております。大学教育は、現在大学が大きく掲げているように「歯学」から「口腔医学」と変化し、歯科の知識のみならず、医科に関わる知識も有するような歯科医師を育てるように変化しております。

しかしながら、このように変化したもののばかりではなく、脈々と続く福岡歯科大学の「気質」というのを、現在でも至るところで感じることができます。例えば、実習や国家試験勉強などで先輩や卒業生が兄貴分、姉貴分となり、後輩を手取り足取り教育する雰囲気や、学園祭の際の福岡歯科大学の学生としての一体感などを挙げるすることができます。

この時代は流れても変化しない「気質」は、同窓生一人ひとりが長年にわたり培ってきた貴重なものではないかと思えます。私と息子では37歳の年齢差がございますが、この「気質」というものは、お互いが共有できる大いなる財産ではと考えます。今後とも、この「気質」を後輩の皆様にも伝える一助ができれば幸いと存じます。



後藤 文雄 様
(父兄後援会福岡支部長)

平成23年度 入学試験日程

福岡歯科大学

歯学部				大学院 歯学研究科
区分	一般入試A日程	センター試験利用入試	一般入試B日程	二次募集
募集人員	約30名	約6名	約5名	18名(1次と合わせて)
出願受付期間	H23.1.4(火)~1.28(金)		H23.1.24(月)~2.17(木)	H23.1.24(月)~2.10(木)
試験日	2月2日(水)		2月21日(月)	2月17日(木)
合格発表日	2月4日(金)		2月23日(水)	3月1日(火)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp			 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!

福岡医療短期大学

歯科衛生学科						専攻科・口腔保健衛生学専攻
区分	一般入試A日程 (社会人を含む)	一般入試B日程 (社会人を含む)	一般入試C日程 (社会人を含む)	一般入試D日程 (社会人を含む)	AO入試 (社会人を含む)	三次募集
募集人員	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	若干名
出願受付期間	H23.1.4(火)~1.28(金)	H23.2.2(水)~2.16(水)	H23.2.21(月)~3.9(水)	H23.3.14(月)~3.25(金)	詳細は入試係まで お問い合わせください。	H23.3.22(火)~3.28(月)
試験日	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)		3月29日(火)
合格発表日	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)		3月30日(水)
保健福祉学科						
区分	一般入試A日程 (社会人を含む)	一般入試B日程 (社会人を含む)	一般入試C日程 (社会人を含む)	一般入試D日程 (社会人を含む)	AO入試 (社会人を含む)	
募集人員	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名	
出願受付期間	H23.1.4(火)~1.28(金)	H23.2.2(水)~2.16(水)	H23.2.21(月)~3.9(水)	H23.3.14(月)~3.25(金)	詳細は入試係まで お問い合わせください。	
試験日	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)		
合格発表日	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)		
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp					 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!

キャンパス歳時記

1年を振り返り懇親を
深める恒例の「餅つき」

12月28日、本館玄関ホールで毎年恒例の「餅つき」が行われました。

つきたてのお餅を入れたぜんざいや温かい豚汁などがふるまわれ、役員や教職員などの参加者は、この1年を振り返りながら懇親を深めていました。



編集後記

忙しく過ぎる毎日は、本学園の歴史を紡ぐ営みのひとコマです。これまでの一つひとつのトピックスの陰には、たくさんの人たちの努力がありました。それらを記録し、読者の皆様に伝え続けてきた『ニューソフィア』ですが、編集部を刷新し、新たな編集部員のもとで紙面もリニューアルしました。皆でこの仕事をエンジョイしています。読者の声を取り入れ、愛される広報誌づくりに取り組んでまいりますので、今後ともニューソフィアをよろしくお願いたします。(HK)

特待生・特別奨学生決定

福岡歯科大学特待生

平成22年度の第1学年特待生に矢壁勇人さんが選ばれ、10月5日に表彰式が執り行われました。特待生は平成22年度前期の学業成績が特に優秀であり、品行方正かつ健康であることを加味し決定され、当該年度の授業料の半額(約190万円)が免除されます。



福岡医療短期大学特別奨学生

平成22年度第1学年特別奨学生に次の3人が選ばれ、11月11日に本館第1会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、当該年度の授業料の半額(歯科衛生学科:21万円)が免除されます。

歯科衛生学科



中野 六月



中西 愛里



古瀬 恵